

令和7年度第3回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和8年2月17日(火) 16:00～17:10

2. 開催場所 西条市庁舎本館5階大会議室

3. 出席者 【構成員】

西条市長 高橋 敏明

教育長 青野 信樹

教育長職務代理者 福田 亜弓

委員 磯 恒子

委員 鳳 慶洲

委員 一色 一成

【構成員以外】

経営戦略部長 渡部 泰成

経営戦略部副部長兼政策企画課長 菅 裕臣

教育委員会事務局長 串部 佳隆

教育指導監 吉岡 健二

教育委員会事務局副局長兼社会教育課長 佐竹 浩

教育総務課長 白石 元

教育総務課主幹 曾我部 みを

学校教育課長 村上 彰彦

学校教育課主幹 莖田 篤史

学校政策課長 渡部 誉

学校政策課主幹 内田 賢一郎

教育総務課専門員兼教育総務係長 田口 剛洋

【事務局】

政策企画課副課長兼政策企画係長 三村 大樹

政策企画課政策企画係副主査 篠原 彩

4. 市長挨拶

5. 協議

(1) 西条市の学校規模等適正化について

【学校政策課長より説明】(資料1、2)

■現状の取組と課題

- ・審議会からの答申を受け、地域懇談会などで答申内容の周知と意見交換を重ねてきた。地域からは、以下のような相反する意見や不安の声が上がっている。

- 「早く計画を示し、統廃合を進めるべき」という早期策定を求める声
「十分な理解がないまま計画を示すと不信につながる」という懸念の声
「取組が止まっている」「逆に統廃合は既に決まっている」といった誤解や、進め方が分かりにくいことへの不安
- ・これらの状況から、取組の過程が見えにくい点が課題と認識

■基本方針策定の必要性

- ・市民や地域との信頼関係を損なわずに取組を進めるため、まず教育委員会としての共通の考え方や進め方を明確にする「基本方針」を策定する必要がある。
- ・「基本方針」で地域の理解を得た上で、「基本計画」を公表するといった、答申の趣旨に沿った段階的な進め方で実施していくのが望ましい。

■基本方針の内容

- ・市の人口推計や小中学校の現状、児童生徒数の減少に伴う将来予測
- ・学校の適正規模に関する基本的な考え方や適正化を図る方策
- ・今後の取組のロードマップ等、進め方を体系的に示すものとする。

■今後のスケジュール（案）

- ・基本方針の策定：速やかに基本方針（案）を公表し、パブリックコメントを実施
- ・基本計画の策定：基本方針策定後、基本計画（案）を公表し、同様にパブリックコメントを実施
- ・地域との協議：地域説明会で方針・計画を周知し、PTAや地域住民などで構成される「地元協議会」の設置を目指す（令和8年度中）。
- ・再編準備：地元協議会で合意が図られた地域から「準備委員会」を設置し、再編に向けた具体的な準備に入る（令和9年度以降）。

《協議》

教育長 答申をいただいてからこれまでの間に、地域へ出向いて答申内容の周知、話し合いの輪を広げることで今後の継続的な協議につながる土台作りを進めてきた。先程の説明にあった通り、この度、教育委員会が「小中学校の適正規模及び適正配置等に関する基本方針」や「基本計画」を策定することとし、パブリックコメント等を実施する予定としている。まずは、これらの流れについて市長からご意見があればいただきたい。

市長 私の方からは特に異論はない。この流れに沿って進めていただきたい。

教育長 ありがとうございます。今後は、本取組がより具体的に進んでいく予定だが、この取組は教育委員会だけで進めることは難しいため、市長部局との連

携が不可欠であると考えている。これらの点について、教育委員の皆様が特に重視すべきだと思われる点や、配慮してほしい点等あれば、ご意見・ご提案をいただきたい。

礮委員

地域でいろんな意見がありご苦労されたと思うが、ようやく基本方針や基本計画の公表、パブリックコメント等への道筋が明確になり嬉しく思っている。そして、今後の地域での会合は、小中学校の再編について理解を求める方向で進むと思うが、これから各地域の問題点や要望がたくさん出てくると思う。それらを整理し、今後の協議は、子どもたちのためにできるだけスムーズに進めていただきたい。学校間の計画を密に立て、教育委員会と協議して、予算等も必要になると思うので、市長部局の協力を得ながら進めてほしい。統合される学校は、事前に子どもたちの交流が必要である。特に子どもたちの人間関係が心配であるので、スムーズな形成ができるようご配慮いただけたらと思う。

教育長

子どもたちのことを考えていただきありがとうございます。ただ物理的に一緒になるのではなく、子どもたちが前向きな思いを持って統合できるよう取り組みたいと思っている。市長部局のお力添えもよろしくお願ひしたい。

市長

市長部局と教育委員会が、緊密な連携を取って進めさせていただきたい。

一色委員

私も礮委員と同じく、学校適正規模・適正配置の今後の流れが示されたことを非常に嬉しく思っている。その中で、各地域に説明をするときにお願ひしたいことがある。地域によって受け取り方が様々である、という意見もあったが、地域の子どもの学びの環境のあり方を理解していただけるように進めていただきたい。そして、話し合いの中で、教育分野の範囲を超えた改善案や、いろいろな要望が出たときに、その話についても協議ができるように、専門分野の皆さんも一緒にお越しいただけるようなプロジェクトチームの設置ができれば良いのではないかと。市長部局をはじめ、専門分野の方を集めていただけたら非常に嬉しく思う。

市長

やはり再編となると、市長部局の関係部局との連携は必要になってくるので、それをしっかりと進めていきたい。

教育長

前半で一色委員が言われたところだが、例えば、三校が一つの学校に統合される時、この学校はどうあってほしいかという願ひが、それぞれの学校にはあると思う。子どもたちをこんな風に育てて欲しい、こういう願ひがあるというところは、準備委員会の中でしっかりと議論をしていただくことが

重要だと思う。それについては、教育委員会でもいろいろな資料を提供させていただき、より具体的な学校教育像が見られるようにして、皆さんが納得して新しい学校に向かうというような体制を取りたいと考えている。

一色委員 非常に嬉しい言葉をいただいた。そのように進めていただきながら、まずは教育委員会として、どのような教育をしていただきたいかというところが、子どもたち以外の皆さんにも伝わったらいいと思う。

鳳委員 子どもたちの教育環境ということで、この学校適正規模・適正配置の話が始まったのだが、先程の説明の中で、なかなか流れが見えないということが言われていた。今回、このロードマップが出たことで、令和8年早々に基本方針、基本計画案の公表をはじめ、そこから令和8年内に地元協議会の設置を目指すということになった。このように進んでいくときに、地元に出ていき、教育委員会としては、子どもたちの教育環境を一番にということで話を進められると思うが、必ず、スクールバスや学校の跡地の有効活用等、その他教育委員会だけでは難しいところも出てくると思う。一色委員も言われていたが、その辺りは市長部局でも是非ご協力をいただき進めていただきたい。まずは、このロードマップを的確に進めていけるように、市長そして市長部局にもお願いをしたいと思う。

市長 皆さんが言われるとおりで、やはり市長部局もしっかりと参画し、内容については、時には進言も申し上げるというような形で、全庁的に取り組んでいきたいと思っているので、皆様方のご協力をよろしくお願ひしたい。

福田委員 学校規模適正化に向けて、他の委員も言われていたとおりで、前に向いて進んでいく、そういった道筋が少しずつ見えてきており、嬉しく思っている。私は、今回の学校規模適正化について、西条市の教育基本方針のもと、未来の社会を担っていく子どもにどんな教育を保障していくかという視点が大切だと考えている。AIや社会の変化が急速に進む中、これからの子どもたちには、与えられた答えや、いわゆる知識を覚えるだけではなく、自ら問いを立てる力や試行錯誤をする力、仲間と協働しながら考える力、これは、西条市教育大綱にも示されているが、新しい価値を生み出す、クリエイティブで創造力豊かな姿勢が求められていると思っている。そのような学びを実現するために、子ども同士が多様な考えに触れたり、対話をしたり、学びを深める環境というのが必要になってくるが、その中でこういった教育環境を実現するために、ICT教育の環境や、施設整備が重要になってくるのだと思っている。こういった中で、教育とまちづくりの視点を一体的に考えていく必要もあると思っている。また、学校規模適正化を進めるに当たって、保護者

の視点から考えてみると、安心して通える通学環境の確保や、通学距離によってスクールバスの運行整備をすることなどが大切だと感じている。地域の皆様にとっても、学校は大切な存在であるので、丁寧に寄り添う姿勢も欠かせないことだと思っている。

今まで、教育委員会、教育長、市長に各地域を回っていただき、丁寧に声を拾っていただいたことに感謝している。これからは、子どもたちの学びの保障、そして地域の安心安全、地域が活力を失わないことも含め、教育と地域づくりを同時に進めていくことが重要であると私は思っている。そのためにも、どうか地域行政の視点を持った市長部局と教育専門機関として判断をする教育委員会と一緒に考えていくことが、この学校規模適正化を前に進めていく上で大切だと思っているので、よろしくお願ひしたい。

教育長

福田委員から、深いご意見をいただいた。学校で、子どもたちが価値ある学びを得るためには、指導力のある教員の存在が不可欠である。今、西条市では「学び合い学習」という、子どもたちが自分の意見を出し合って、それで自分の考え方を整えていく、自分の言葉でそれを表現するという取組を行っている。また、今年度から、素晴らしい先生の授業を見て、先生自身が自分の授業を改善するという取組も実施している。この取組をさらに進めて、力のある先生方を育て、子どもたちが楽しく、そして力のつく授業ができるように、進めていきたいと考えている。

市長

市長という立場から申し上げますと、教育のこと、そして地域の発展ということもしっかりと念頭に置きながら、再編を進めていきたいと考えている。私の立場では、現実的な問題としてコストについても考える必要があるので、そういうこともお含みおきいただきながら、西条市に住んでよかった、西条市で学んでよかったと皆さんに思っただけのよう、最善の努力をしたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

(2) 教職員の働き方改革について

【学校教育課長から説明】(資料3)

「西条市立学校の教育職員に関する業務量の管理及び健康確保措置に関する実施計画」の策定について

■計画策定の経緯と目的

- ・背景：教員の長時間労働が社会問題化し、文部科学省が「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」を改正。各教育委員会に実施計画の策定・公表が義務づけられた。
- ・目的：教員の長時間労働を是正し、授業の質を向上させる。また、教員の健康と生活の質を守り、持続可能な学校運営を目指す。

- ・策定プロセス：学校現場や校長会での意見を踏まえ、協議を重ねて策定を行った。

■計画の主な内容

- ・目標設定：時間外在校等時間について、「1箇月45時間以内、年間平均30時間」という具体的な数値目標を設定。その他、ワーク・ライフ・バランス、ストレスチェックの結果、有給休暇の取得率に関する目標も掲げている。
- ・計画期間：令和8年度から令和11年度末までの4年間。ただし、毎年度の状況を検証し必要に応じて見直しを行う。
- ・具体的な措置（業務の見直しと適正化）：
学校以外が担う業務：通学路の見守り、保護者からの多様な要求に対応する体制を検討
事務負担の軽減：グループウェアを活用し、調査回答などの事務負担を軽減
教員の負担軽減：特別支援教育において、スクールサポートスタッフ等を配置し、
教員の負担軽減を図る。

■今後の進め方

- ・今回の総合教育会議への報告をもって計画の策定が完了
- ・その後、市内全小中学校へ周知説明を行い、取組を推進していく（令和8年4月～）。
- ・市ホームページに本計画を掲載し、保護者や市民へ周知する。

《質疑》

一色委員

まず、このように教職員の皆さんの仕事の範囲が明確になり、現状でどの程度の業務負担があるのかが可視化されたことで、私自身勉強になった。先生方は、無駄に時間をかけて仕事をされているわけではないと認識している。それでも、仕事が圧迫しているこの現状を、全体でカバーしていこうという流れは非常に良いことだと感じている。

私の方からは、地域との連携強化という点で、部活動の視点から意見を述べさせていただきたい。教職員の働き方改革で注目を集め、地域社会全体の活性化にもつながる大きな可能性があるのが、この部活動の地域展開ではないかと思っている。その実現に関しては、教育委員会をはじめ、地域住民、スポーツ協会、地域クラブ、保護者、行政が一体となった地域共同体制を構築することが不可欠ではないかと思う。例えば、市のスポーツ施設や民間クラブと連携した活動の確保、地域の指導者の発掘や関連団体との協力、保護者による送迎支援等、部活動の地域展開は学校だけの問題ではなく、地域全体で子どもたちを育み、発展していくことが期待されていると考えている。今後、具体的な検討を進めることになるかと思うが、市のリーダーシップも必要であると考えているので、教職員の働き方の内容と合わせて、市としてもこういうふうな仕組みを作ったらどうだろうかというところで、リーダーシップを発揮していただきたいと思う。

教育長

部活動の地域展開について話をいただいた。実は昨日、このことについて話し合いを持ったところである。なかなか実現に向けての道筋が遠く、いろいろな問題が浮かび上がっている。例えば、指導者が見つからない、その学校の部活動をなくすことについてはどうか等、深い話になるため、なかなかすぐのことにはならないと思っている。最終的に感じたのは、これは教育委員会の中だけで話していても早期の展開は望めないということ、市長部局はもちろん、スポーツ協会や関係する皆さんの力を借りながらではないと、地域展開というのは難しいのではないかと考えている。また、このような点で協力していただきたいという具体的な案を持って、改めて市長部局にもお願いに上がりたいと思っているので、どうかよろしくお願ひしたい。

市長

文部科学省は、部活動について、学外の指導者にどんどん入ってもらう方向で展開しつつある。西条市としてもそうしたいところであるが、先程教育長が言われたように、人材のこと、特に地方では、そのような専門の方が少ない傾向にあり難しい。そしてコストの面。無償というわけにはいかず、国から一定の助成金はいただけるものの、まだ十分ではない。このような問題はあがあるが、西条市としても、現在すでにモデル事業を展開しているので、そのモデル事業をさらに推進し展開していく。全クラブ活動をというのなかなか難しいが、対応できる部分から取り組んでいきたいと思っている。そして、部活動だけではなく、もう少し広い見方として、コミュニティ・スクールがある。学外の専門家が学校に対して様々なことを支援するというものであるが、これも国・文部科学省が推進しているところであるので、西条市としてもしっかりと取り組んでいきたい。そのためにも、国にはそれに見合う資金助成をしっかりとさせていただくよう、地域から国に向けて要望していくことが必要だと考えている。

議委員

私は、労働時間の問題というよりは、教師がやりがいのある仕事で、働きがいを感じながら、日々子どもたちと向き合っていけるかどうかの問題だと思っている。教師はやはり授業が一番であり、ベテランであろうと日々教材研究をして、時間をかけながら毎日の授業をこなしている。子どもたちを理解して、子どもたちの成長のために時間を費やすのが教師の仕事だと思っている。しかし、一部の保護者への対応に時間が割かれたり、心を病んでしまったり、そういうこともある。例えば、放課後、仕事をしていると、電話がかかってきて、その内容に悩まされることもある。また、給食費の集金の場合、口座振替にしている家庭もあるが、振替できない家庭や現金集金の家庭には、担当の教師が時間を割いて督促をしたり、年度末には家庭を回って集金に行ったりしている。今は、教員の本来的な仕事とは考えられないことまで要求されているのが現状である。時間外の電話などは、留守番電話機能付きに変え

ていただくと負担が軽くなる。集金の問題は、保護者や子どもとの人間関係が壊れることもあるので、すぐにでも教員の仕事から切り離して欲しいと願うばかりである。教員が安心して子どもたちへの指導に打ち込める環境を整えていただくことが最も大切だと思う。また、教員には与えられた研修があるが、経費は限られている。もっと勉強したい、もっと力をつけたいと思っても、なかなか時間もなく、自己負担も大きくなる。市で旅費の補助制度でもあれば、その意欲のある先生方がもっと活動的に力をつけてくれるし、その先生によって他の先生方へも反映していくと思う。そういう研修の機会が先につながるのではないか。それはすべて子どもたちに還元していくことになるので、本当に打ち込めるような環境づくりと、そういう教員が生きがいを持って仕事ができるよう、意欲が高まる研修等への参加ができる環境を作っていたらなと強く思っている。

教育長

議委員から教員の大変さを語っていただき、私もその通りだと感じた。私からは後半部分の研修について触れさせていただく。現在、割合として20～30代の若手の先生が増えており、その代わりに40代の先輩となる先生が少なくなっている。昔であれば、先輩の先生からいろいろなことを細かく教えてもらっていたが、今の若手の先生にはそういう機会が少ないということで、教育委員会として何かサポートができないかと考え、今年度から「トップランナー事業」をスタートした。これは、上手な先生の授業を若手の先生方に見てもらおうというもので、今年度は合計17回の授業を公開した。校長先生の話によると、その授業に参加して帰った先生方は非常に意欲が出て、その先生の授業に近づきたいということで、勉強をしたり、情報交換をしたりと前向きな姿勢が見られたということであった。また、授業の質が変わりつつあるというようなことも聞いたので、次年度以降もこの事業をより充実させていきたいと考えている。若手の先生方をどうにかサポートしていきたいと思っているので、また良い案があればご教授いただきたい。

市長

議委員が言われるとおり、意欲を持って取り組んでいただくということは非常に大事なことで、私も以前から、学校の先生が元気にならないと子どもたちも元気にならないと思っているところである。どのような方策があるか、これはもう十分検討されている分野であるが、いわゆる業務外の分野での補助、教育支援員を増員する等が考えられる。また、社会的に権利意識が強くなっており、その対応に苦慮していることもあるので、学校にはスクールカウンセラーを設置している。国が1990年代に制度化したもので、市としても多くのスクールカウンセラーの方にご参画いただきたいと思っている。また、スクールカウンセラーだけでなく、スクールソーシャルワーカーや昨年度から発足したスクールトレーナーなど、様々な形で学校に対してアプローチを

していく形ができつつある。一方で、これらが十分上手くいくのかということ、実はそうでもない現状がある。学校の先生方や学校関係者は、学外の方に入ってこられることに対して、違和感と言え失礼かもしれないが、やはりある種の思いがあるようである。そこをいかに払拭するかということも、市としては非常に大切だと思っている。つまり、学外の方が来られるには、ある一定の研修を受けた形で、教育や学校の仕組み等について学んでいただいた上で入ってきていただくことが必要だと思っている。そして、やはり報酬は必要だと思っているので、市としてそこも考えないといけないし、国や県と連携して考えていく必要があると思っている。

礪委員

ありがとうございます。大昔のことを思い出すが、自分も教師としてまだ若かった頃、隣の先生に相談したくても、その先生も忙しくてなかなか相談ができず、孤独感を感じるようなことがあった。若手の先生方にそのような思いをさせたくないで、こういう機会だけではなく、同世代の先生方やベテランの先生方とも話し合える会があるといいと思う。

福田委員

子どもたちにより良い学びを保障していくためには、子どもの学ぶ環境だけではなく、先生方が安心して働ける環境づくりも同時に進めていく必要があると市長も先に言われていたが、私からは業務の削減・効率化という視点でお話をさせていただきたい。保護者の立場から見ても、先生は本当に忙しく、子どもとゆっくり向き合う時間が十分に取られているのだろうかと感じる場面がある。教員の業務負担を軽減するためには、文部科学省が示す、学校と教師の業務の3分類、「学校が担うべきは何なのか」「家庭や行政など他の立場が担う方がいいのか」、そういったことを改めて整理していくということが大切だと思っている。教育委員会でも議論は絶えないが、今の学校は、子どもが関わる様々なことをできる限り学校で抱えている状況にあるように感じている。この中で、家庭ができること、行政が支えてくれること、こちらを整理しながら進めていくということが必要である。

一方で、先生方が家庭や地域と関わるのが、子どもたちの理解や指導につながる大切な場面もあるので、そこは丁寧に考えていく必要もあると思っている。そこで大切になるのが校務分掌という、先生方が学校の仕事を分担して支え合う仕組みだと思うが、先生の数が少ない学校では、一人の先生がいくつもの役割を担うことになり、どうしても負担が大きくなりがちである。個人の頑張りに頼るのではなく、学校全体で役割を整理し、組織として支え合える体制作りが重要だということを感じている。その中で、スクールサポートスタッフや、先ほど市長からもご提案のあったソーシャルワーカー、スクールトレーナーというアプローチ、こういったことを充実させていくこと、また、デジタル技術を積極的に活用して校務の効率化を進めること、これらの取組も必要だと

思っている。こうした取組には、人的な支援やシステム整備に一定の投資が必要になるかと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

繰り返しになるが、先生方が元気で、そして笑顔で子どもたちと向き合えることが、結果として子どもたちの学びの質につながると思っている。どんな学校なら子どもが輝けるかを一緒に考えていきたいので、またどうぞご支援のほどよろしくお願ひしたい。

教育長

ありがとうございます。この実施計画を読み、これは学校文化というのが変わっていく一つのきっかけになるのではないかと思った次第である。この計画を学校の中だけで温めていると、子どもたちに十分な支援、指導ができないのではないかと思う。地域の方々や市民の皆さんにも知っていただき、皆さんが前向きに学校に関わってくれることで、この計画というのは実行に移せるのではないかと考えている。学校は今、本当に変わりつつある状況なので、うまく変わっていきけるように、教育委員会事務局としても情報提供を行い、支援につなげていきたいと思っている。

鳳委員

この計画は、教職員の皆さんの負担軽減に向けた重要な一歩であり、大変素晴らしいことだと思う。先程、市長のお話の中でも外部の方ということを言われていたが、私自身、今、地元小学校でコミュニティ・スクールのお手伝いをさせていただいており、このコミュニティ・スクールの推進が先生方の働き方改革の一助になるのではと期待している。現在、全小中学校、全地域でコミュニティ・スクールが実施されているが、この地域の方々による見守り活動や放課後の学習支援、学校設備の環境整備など、地域の方々の協力は、学校の負担、先生方の負担軽減になっていると思っている。ただ、その活動をより進めていくためには、地域の方々の理解と積極的な参加が欠かせない。教育委員会では、学校の現状の取組等を積極的に情報発信し、地域全体で子どもたちの教育を支えるという意識を醸成しているが、今後も積極的に取り組んでいく必要があると考えている。地域行事の見直しや地域人材の掘り出し・確保・活用など、また、保護者や地域の皆様にご協力をいただける範囲を拡大して、共に向上できる機会を増やしていければと思っている。もちろん、今活動している方もそのような思いで活動をされていると思うが、市には、学校と地域、保護者との連携を強化するための広報活動や、地域と学校の共同活動において必要な経費の支援等、より一層のサポートをお願ひしたいと考えている。

市長

ありがとうございます。鳳委員の言われるとおりであり、やはり地域の小中学校は、特に地域に密接な関わりがあるので、地域の皆様の応援をいただけるような学校づくりが必要であり、そしてそれを市がしっかりとしたサポ

ートしていくことが必要だと感じている。「チーム学校」という言葉があるように、学校の先生だけで学校を盛り上げ、発展させるのではなく、地域の皆さんと一緒に学校を発展させるということが非常に大事であるので、その機運の醸成づくりに、市としてしっかりと取り組んでまいりたいと思っているので、今後ともご意見、ご指導のほどよろしくお願ひしたい。